

まきどき・植えどき・収穫どき

どきどき情報

3月

●野菜等の作業

種まき・植え付け	栽培管理のポイント
<p>播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ブロッコリー ・シュンギク ・チンゲンサイ ・ニラ（株分けも） ・サヤエンドウ ・パセリ ・セルリー ・キャベツ、レタス ・ニンジン ・露地用果菜類、シソ 等 <p>植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレイショ ・ウド、ミョウガ 	<p>育苗・定植時における病虫害防除対策</p> <p>○健全苗の確保は、本畑への病虫害の持ち込み防止に大変重要です 育苗時に発生する主な病虫害としては、病害では立枯性病害やウイルスなどであり、害虫ではアブラムシやアザミウマ、ハモグリバエの類があります。 防除対策としては、床土は消毒済みの培土を使用し、苗はできればハウス等の施設内で管理し、防虫ネット等でウイルスを媒介するアブラムシ類やアザミウマ類などの侵入を防ぐようにします。 また、破れたビニールや防虫ネット等は補修をしておきます。購入苗についても同様に管理し、病虫害の発生につながらないようにしましょう。</p> <p>○定植後の病虫害防除も注意が必要です（主に施設野菜を中心に記載） 健全な苗を定植した後は、病虫害が多発しないよう早期発見・早期防除に努め、摘葉や摘芯の残渣は発生源になる可能性がありますので、ほ場外へ持ち出し適正に処理します。 ほ場内外の除草等を行うとともに、破れたビニールやネット等の補修を行い、害虫の侵入等を防ぎます。 また、窒素過多を避けるとともに排水や換気に注意し、病害の早期発見に努めうどんこ病や菌核病などの蔓延を防ぎましょう。 ウイルス病では、発病株の早期発見に努め、抜き取り処分をするとともに、媒介昆虫の防除を徹底しましょう。 また、ハサミや手などの洗浄も重要となりますので励行しましょう。</p>
<p>早春期の管理～初期生育の促進・追肥のポイント～</p>	
<p>○早めのほ場の準備 早めにマルチを張り地温を高めておくことで、保温効果が高まるとともに、活着も良くなり低温によるストレスを受けにくくなります。 夏作に向けて早くから白黒マルチを展開するケースも見受けられますが、早春期には十分な地温を確保しにくいので、黒マルチなど保温性のよいマルチを利用するとよいでしょう。</p> <p>○定植 定植はなるべく風のない晴天日の午前中に行い、晴天でも風が強いと葉から水分が失われ、活着まえでは根から水分吸収が追いつかずストレスとなります。苗には定植前に十分かん水しておき、マルチの下の土壌が適湿であれば、定植後の多量なかん水は必要なく、逆に多量のかん水は地温を下げてしまうことがあるので注意が必要です。定植前日のうちにあらかじめ植え穴を開け、水をやっておくのも一つの方法です。</p> <p>○追肥 ・タマネギ 3月から生育が回復し、肥料の吸収量が多くなってきます。 追肥は3月上旬と中下旬の2回に分け1 a 当り野菜用の追肥肥料を4 kg程度施用します。 遅い追肥は貯蔵中の腐敗を増加させるので、3月中に終らせます。</p> <p>・ニンニク 茎葉の生育が旺盛となる4月頃から肥料の吸収量がおおくなります。 追肥は、3月下旬から4月末までに、2～3回にわけて1 a 当り野菜用の追肥肥料を4 kg 施用します。</p>	





農業豆知識

野菜育苗作業（培土・トレイ）

育苗方式には地床育苗・紙ポット苗・型枠苗
ソイルブロック苗のほか、移植などと結合し
てシステム化されたセル成型苗（プラグ苗）
古紙成型ポット苗・ポット苗などがあります。
セル成型苗の場合、市販の培養土を用います
がほとんどの場合ピートモスが主流です。
ピートモスは撥水性があり、乾燥したままで
トレイに土詰めするとかん水しても培養土に
水が浸み込まないため予め水分調整が必要で
す。セル成型苗のトレイには、ポリエチレン
製、発泡スチロール製などの素材がありトレ
イの規格があります。

農林水産省統一規格トレイ

適応品目	トレイの種類	セルの大きさ
トマトなど	20角288穴	20角×深さ40
レタス・ホウレンソウなど	25角200穴	25角×深さ45
キャベツ・ハクサイ ブロッコリーなど	30角128穴	30角×深さ45

長野県内の農用地土壌における放射線物質濃度の調査結果（速報値）について

平成23年10月25日～11月9日に、県内60地点の農用地（水田30普通畑30）から土壌を採取し、農林水産省が指定した分析機関において、ゲルマニウム半導体検出器を用いて測定しました。調査の結果、土壌中の放射性セシウム濃度（ ^{134}Cs 、 ^{137}Cs の合計）は、40地点で不検出、20地点で13～137ベクレル/kg乾土でした。また放射性ヨウ素は、全ての調査地点で不検出でした。上小管内の結果は以下の通りです。

市町村名	地目	放射性濃度(Bq/kg乾土)			採取日
		^{134}Cs	^{137}Cs	合計	
上田市	畑	不検出	30	30	10/31
上田市	水田	不検出	不検出	不検出	10/31
上田市	畑	不検出	不検出	不検出	10/28
長和町	水田	不検出	不検出	不検出	10/28
上田市	水田	不検出	13	13	10/31
上田市	水田	不検出	不検出	不検出	10/28
青木村	畑	不検出	不検出	不検出	10/31

固化培地セル成型苗を利用した育苗方法（平成18年度長野県試行技術・平成21年度長野県技術情報）

通常は葉菜類で用いられるセル成型苗は、本ぽでの定植が可能になるのは根が巻いてセルトレイから抜き取れるまでに生長した本葉3～4本時点ですが、この固化成型された固化培地を利用することにより根鉢形成前の若苗（本葉1枚程度）での定植が可能となります。

但しこの固化培地はJA等ではまだ扱っていません。

ときどき情報電子版の発行もはじめました（今月号の電子版にのっている画像）↓

- ・冬場野菜の写真（生育状況 プラグ苗など 小松菜 タカナ ナバナ など）
- ・ハウス栽培 ホウレン草と二十日大根の写真

※電子版はあさつゆレジですぐ見れます

各種写真 10枚位見れます 撮影 2月下旬

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
地域係 近藤普及指導員（Tel.25-7156）